

# 教育センター通信

## ほど 火床の火の心を紡ぐ

第3号（通算第42号）  
平成29年6月22日  
三条市小中一貫教育推進課  
教育センター 発行



リトルティーチャー活動  
中学生→小5 国語「竹取物語」へ  
(6月7日、一ノ木戸ボプラ学園)

### 幼保小中の連携による就学・教育相談の充実を

教育センター 統括指導主事 大西 聡子

「安心して小学校に入学させられます。」少し前のことになりましたが、3月末に、当時年長児だったAさんの保護者の言葉です。Aさんは、保育園での生活において落ち着きのなさが見られたため、担任がAさんの気持ちに寄り添い、特性や状況に応じた適切な支援を行うことで、入学間近の数か月間は比較的落ち着いて集団生活に参加できるようになりました。しかし、小学校入学による環境の変化から、Aさんの不安定さが予想されることを心配した保護者は、かなり早い時期に就学相談を申し込まれました。何度も相談を重ね、保護者から就学後の生活やサポートに対する理解を得ましたが、最終的に保護者との合意形成を図ることができたのは、保護者と校長先生を始めとする先生方、そして保育園の担任、市教委の4者で行った、保護者の気持ちを受け止めながらの丁寧な相談でした。とりわけ、保護者が最も信頼を寄せていた保育園担任が加わることで、Aさんの特性や支援の経緯、最適な対応方法を皆で共有できたことが大きかったと感じています。Aさんは入学後、就学相談で共有した支援内容・方法に基づいた指導のおかげで、落ち着いて学校生活を送っています。

平成23年度から、「三条市幼児教育推進プラン」に基づいて幼保小の連携が計画的・継続的に行われています。連携や引継ぎ等を密に行うことにより、児童の特性や支援等の共通理解が進み、幼保から小学校へのスムーズな接続が可能になります。ひいては、それが子どもたちや保護者の安心感や信頼感につながります。

今年度も、平成30年度小学校入学へ向け就学相談を開始しました。小中学校でも、就学相談や教育相談を進めていただいているところです。関係者による丁寧な相談、個に合った学びの場の選択により、児童生徒が安心して学校生活を送り自分のよさを発揮してほしいと願っています。

## 「環境教育研修会」(三条市清掃センター、環境啓発施設「かんきょう庵」)

5月30日、エコクラス等三条市の環境政策についての理解を深め、環境教育の充実を図ることを目的に、環境教育研修会を開催しました。



始めに、環境啓発施設「かんきょう庵」を会場にして、環境課の担当職員から、三条市が推進している環境政策について、概要を説明させていただきました。その後、隣接する三条市清掃センターに異動し、職員から三条市のごみ処理の説明を受け、施設の見学を行いました。受講された先生方からは、次のような感想をいただきました。



- 【受講者の声】 ※肯定的評価(参加してよかった、どちらかと言えば参加してよかった): 100%
- ・三条市の最新のごみ処理のシステムを知ることができ、児童の指導に生かせると感じました。ごみの分別による危険性など子どもにもよく考えてほしいこともあり、学習に生かしていきたいと思えます。
  - ・子どもの生活に近いごみについての単元は社会科でも特に追求が深まるので、事前に清掃センターを見学することができてよかった。かんきょう庵は初めて入ったが、開かれた施設だなという印象です。
  - ・実際に施設見学をし、話を聞いたことにより、子どもたちとの見学イメージがわいてよかった。何よりごみ焼却についての仕組みなど、知らなかったことが多く、勉強になってよかったです。

## 第1回教科カリキュラムの活用、授業づくり講座・演習

6月13日、16日に標記研修会を開催しました。最初に作業シートを使っての個人作業を二つ。

- ① 学園の教科カリキュラムから1単元を選び、当該学級の実態から「既習事項の確認」「発展的な内容」「系統的な学習内容の積み上げ」「9年間の学びにおける本単元の価値」等の見直し。
- ② ①を踏まえて本単元で大事だと思う指導内容や指導方法、自分が工夫したい事の記入。

その後、教科ごとのグループ演習。各教科内で作業シートを紹介し合い、意見交換を行いました。最後に担当指導主事からの指導助言、第2回・演習に向けての説明、予告をしました。国語3名、社会3名、算数2名等、7グループとも少人数でしたが、活発な意見交換が行われ、理解が深まった研修となりました。

- 【受講者の声】 ※肯定的評価(参加してよかった、どちらかと言えば参加してよかった): 100%
- ・グループでの意見交換で自分の考えが深まったので、意見交換の時間や人数を増やしてほしいです。他の学年の立場から話をさせていただいたので、9年間を見通した教育の重要性を感じることができました。
  - ・とても有意義で学びの多い研修でしたので、次回はさらに時間を使って同じ内容を行っていただけると嬉しいです。9年間の学びの考え方が、以前よりも明確になりました。



# 三条市のコミュニティ・スクール～地域とともにある学校づくりの推進～

モデル校をお願いした「三条おおじま学園」「さかえ学園」の各小中学校7校が、今年度からコミュニティ・スクール（以下CS）となり、本格的に「地域とともにある学校づくり」の取組を始めています。

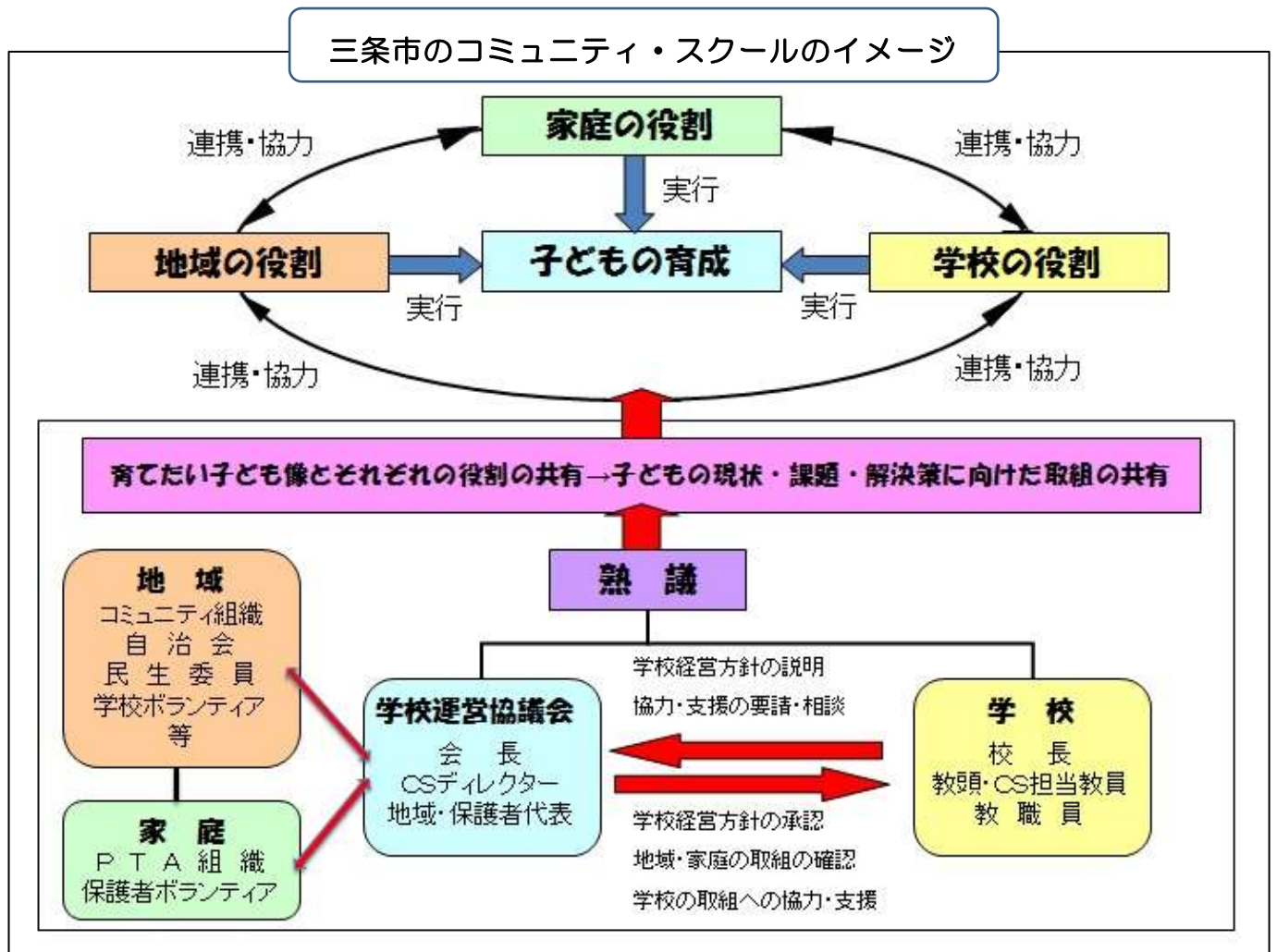
CSとは、その中核となる「学校運営協議会」において、地域住民・保護者・教職員の代表からなる委員が、学校の様々な課題について話し合い、それぞれの立場でできることを考え、実行していく仕組みのある学校です。

地域・保護者の代表（学校運営協議会委員）には、学校の要請に応じて協力する「支援者」ではなく、ともに未来の地域の担い手を育てていくための学校づくりを行う「パートナー」としての役割を求めます。三条市では、事務局を担う方を「CSディレクター」として位置付け、学校と地域とをつなぐ役割を担っていただきます。



学校運営協議会委員任命式（5/9）

いずれはこの仕組みを三条市の全ての学校・学園に広げていきます。小中一貫教育とCSとを車の両輪としながら、地域・保護者・小中学校職員が手を携え、三条市の子どもたちを育てていきたいと考えています。





## 第18回小中一貫教育推進委員会 6月2日(金)10:00～(栄庁)

今年度第1回の推進委員会(7名の委員が交代)がありました。「三条市共通の小中一貫教育に係る点検・評価アンケート」、「新評価システム」について委員の皆様からご質問・ご意見をいただきました。(紙面の都合で一部の抜粋です。)

### 協議事項1 三条市共通の小中一貫教育に係る点検・評価アンケートについて

Q: 30年度の形を先取りで一本化して、保護者には学校評価という形(市のアンケートを採らない)でやりたいという学校があった場合、可能かどうか。  
A: 今年度を最後として従来どおりの点検・評価アンケートを実施していきたい。

### 協議事項2 新評価システムについて

Q: 「4年間取組を継続しても数値が向上しない評価項目は質問文自体に問題があるのではないか。」というの、具体的に何の評価項目なのか。

A: 例えば、児童生徒の学習意欲の向上で保護者に対する質問です。学習意欲が上がっていることは確認できるが、それが小中一貫教育の成果なのかどうかが見えにくいということで肯定的評価に○を付けにくい。あるいは、分からないところで○を付けてしまうということです。

Q: 説明の中に「30年度からの義務教育学校では、例えば『乗り入れ授業』という取組や考えそのものがなくなり」とあるが、「乗り入れ授業」はしないというように受け取られかねないか。

A: 中学校から小学校へ、小学校から中学校へというように、学校の枠を超えて授業をするということを「乗り入れ授業」と呼んでいます。大崎学園がスタートしたときに、一つの学校の中での授業の交流ということで「乗り入れ授業」という言葉がすんなりと当てはまらないと考えました。したがって、大崎学園でも従来言うところの「乗り入れ授業」に替わる取組はなされると考えています。

ほかに、「新学校評価システムのアンケート記載文言、実施までのスケジュール」についてご意見をいただきました。今後は、定例校長会議、学園校長会等でご意見をいただく中で検討を進めていきます。ありがとうございました。



## 授業力向上実践研修(Step1, Step2 研修)がスタート!

～特徴～ ①「1年間にわたる長い研修」 ②「自分で計画的に進める研修」 ③「一人一人に担当指導主事が付く研修」

5月のガイダンスを経て受講生は、研修計画(研修課題、授業教科・単元等の決定)を作成しました。今年度は、「Step1 研修(教職経験2年目～5年目)」20名(小15、中5)、「Step2 研修(教職経験7年目～10年目)」10名(小6、中4)の受講です。今後は3回にわたりそれぞれが、「授業づくり入門学習会」、「教育研究論文作成学習会」を行い、2学期に研究授業を公開し、最後にまとめとして「授業づくり実践記録」、「教育研究論文」を執筆します。「Step1」では授業づくりの力を高める基礎的な研修を、「Step2」では教育論文作成を中心に自身の授業の課題を探り、その解決を目指した研究を進めていきます。この実践研修をとおして正に日々の授業と向き合う中で指導力向上に磨きを掛け、受講者それぞれが掲げる「授業にかける願い」が実現されていくことを期待します。



～受講者の「授業にかける願い」から一部拾ってみました～ (◆; Step1 ◇; Step2)

- ◆全員が安心して考えを伝え合うことができる授業にしたい。
- ◆児童がもっている「歴史」や「現代社会」などについての知識や考えに対して、驚きや発見の多い授業にしたい。
- ◆友達と競い合うことや運動に取り組む楽しさや喜びを見出し、友達のよさを認め合える児童が増えるようにしたい。
- ◆4技能をバランスよく指導し、子どもが英語を積極的に発信しようとする姿勢を育てたい。
- ◇既習事項の比較や図や式での表現、子ども同士の対話を大事にしていく授業を行いたい。
- ◇自ら問題を解決させたい思いに駆られ、追求を進めていく授業を実現したい。
- ◇ふるさとに暮らす一員として自分の町の課題を見つめ、解決や改善のためにどのように取り組んでいるかを追求し、主体的に関わり参画したいという姿勢や態度を高める授業を目指したい。
- ◇生徒の疑問やワクワクを多く引き出し、問題意識と学習課題を結び付けることで生徒が目輝かせて学ぶ姿を求めている。

